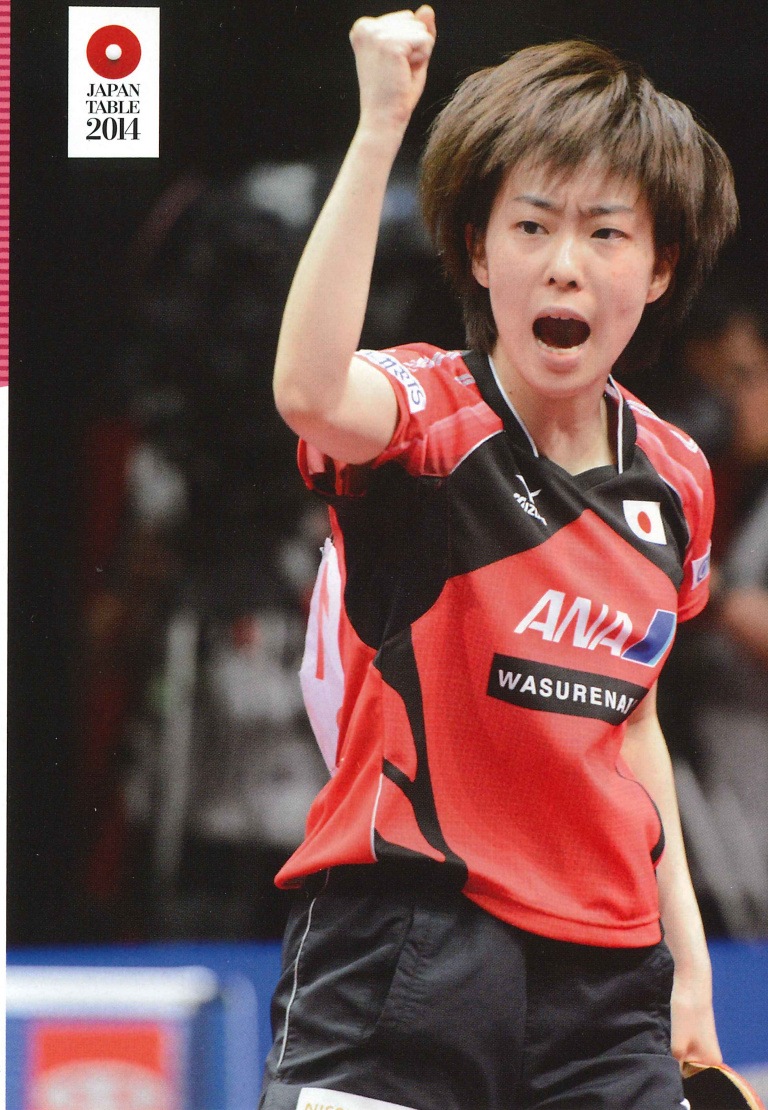


## 石川 佳純

全農

凄く良い雰囲気プレーでできました。みんなで助け合った銀メダルです。



「取材して、色々ですね」とコートで集中しているときの鋭い目つきではなく、愛くるしい笑顔で話してきた。普段は、明るく快活、また可愛らしい笑顔の石川選手。だが、いざ試合になると、たちまちアスリートの表情に「変する」。

アスリートは、オンとオフの切り替えが大事になる。

今回の取材で「なぜ石川選手が日本を代表する選手なのか」ということがよくわかった。

弱冠14歳で日本代表デビューを果たし、現在21歳になる。世界ランキングは常時トップ10をキープする。

日本女子チームは、12年ロンドンオリンピックで銀メダルを獲得したことから、J.A全農世界選手権東京大会でも銀メダル以上の成績が期待された。

そこに突然、ダブルエースの福原愛選手の故障現場が決まる。

関係者の間に、福原選手抜きではメダル獲得は厳しい状況との話が広がりはじめた。

「福原選手の故障は、驚きました。しかし、そういうときだからこそ今のメンバーで一致団結し、目標に向かう必要があると強く思いました。私の役目はとにかく勝つこと。勝ってチームに貢献することでした」と答えた。

宣言通り、大会では負けが許されないと重圧のかかるなかタイペイ戦、決勝トーナメントのオランダ戦、香港戦でエースとしての役割を十二分に果たし、日本を31年ぶりの銀メダル獲得に導いた。

「試合に出場した私たちだけでは

なく、会場で応援してくれた方、サポートしてくれた方、全員が本心に団結していたからこそ獲得できた銀メダルだったと思います。みなさんに本当に感謝したいと思います」

「福原不在」という大きなハンデを背負いながらも獲得した銀メダル。石川選手は、また歩、大きく成長した。

●

——今回の世界選手権は日本開催。特別な思いは。

石川 日本で行われる世界選手権だったので、活躍できるように頑張りたいと思って準備をしていました。その前に行われた世界選手権横浜大会で、良いパフォーマンスが出来たので、日本開催は楽しみでした。

実際、楽しかったですし、この舞台で試合をできることは幸せだな、と思って毎回試合に挑むことができました。また、連日多くのメディアの方が取り上げてくれたので、それも嬉しかったです。

——大会直前、福原選手の欠場が決まりました。石川選手にかかるプレッシャーが大きくなったのではないかと思いますか。

石川 正直、これまでの世界選手権と違って、プレッシャーを感じていたと思います。

いま試合が終わって振り返ると、大会前は、頑張らなきゃいけないという気持ちだったので、練習も頑張っていて、プレッシャーがあったからこそ良いプレーができたと思います。毎試合終わる度に、自分が感じていたプレッシャーを実感する、という感じでした。

——では普段通りプレーして、団体戦

なので、みんな頑張ろう、という感じだったので。

石川 そうだと思います。今大会は、みんな助け合って勝利した試合が何度もあったと思います。

個人的には、2回出番をもらった時は、2回勝てるように最高の準備をしよう、と思っていました。

——ところで、昨年、陳莉莉さんがコートになりましたね。

石川 技術面、精神面、戦術面と、全てよくなっていると思います。教えていただいた技術を試合で使うことができていると思います。技術の安定があるからこそ、試合運びの良さ、戦術の幅、試合中の精神面の安定に関係していると思います。

——全日本選手権で優勝後、2月、3月とプロツアーがありました。調子はどうでしたか。

石川 調子はよかったです。大会が終わる度に、課題が見つかって、その課題を克服するために練習をして、という繰り返しでした。思い通りに調整して本番を迎えられたと思います。

——これまで参加した世界選手権団体戦では一番下。今回、自分より年下の森選手がメンバー入り。森選手がプレーしている時の石川選手の表情が、なんだか嬉しそうに感じたのですか。

石川 初めて年下の選手と団体戦に出られて、正直うれしかったです。

初めての世界選手権の団体戦。しかも日本開催。森選手は、もっと緊張するのでは、と思っていたのですが、凄く良いプレーをしていたので、すごいな、と感じました。

——グループリーグの組み合わせを見

て、どんな印象を受けましたか。

石川 チャイニーズタイペイ戦が山場になると思っていました。

タイペイ戦では、2番で鄭怡静選手と対戦しました。これまで鄭選手とは五分五分の成績。しかし、前回対戦した時は負けています。

試合は緊張したのですが、相手も緊張しているのがわかりました。ただ、対



戦成績が五分五分だったので、勝つこ

ともあるし、負けることもある。勝ち負け気にせず思い切ってプレーしよう、と思えたので、納得のいくプレーができたと思います。

——決勝トーナメント初戦はオランダ。オランダを見て驚きましたか。

石川 驚きました。しかし、私はリ！ジャオ選手と最初に当たると思ってい

たので、心の準備はしていました。

石川 2番と5番に出場しました。試合は、反省しなければいけません。

最終ゲーム、7-12で勝っていたのに、挽回されてしまいました。負けた原因はたくさんあると思うので、これから同じような試合をしないようにしないとダメですね。凄く良い勉強になりました。

——5番も接戦になりましたね。

石川 ほとんど負けそうでしたし、あそこまで接戦になった、というのは良いことではないと思います。ただ、今までは、あのような流れでは負けてしまうことが多かったと思います。あそこから踏ん張って勝つことができたことは、いままでもより成長できたのかな、と思います。

——香港戦を振り返ってください。

石川 言葉で表現するのが難しいのですが、1番で石垣さんが負けてしまったのですが、流れはよかったです。前日のオランダ戦は、石垣さんが勝利してくれたおかげだと思っ

たので、その良い流れもあったと思っ

——本場に雰囲気良かったですよ

ね。2番の後、続いている4番は。

石川 2番の試合が終わって、平野さんの0対2の1-6の時に、ベンチに戻ってきました。正直、苦しいかな、と思ったのですが、挽回劇がはじまりました。あそこから勝つのが凄く思いました。次は私の試合だったので、この流れに乗って絶対に決めなきゃ、と思って試合に入りました。

2番、4番の2試合とも1対2からの挽回勝ちだったので、なぜか自

信を持ってプレーすることができていたと思います。

——たしかに集中していたと思います。前半はミスが出ると思った顔をしていて、途中からガリリと雰囲気が変わったと思います。

石川 わかります。オランダ戦の時のような表情ですね。小さい頃から私のプレーを見てくださっている方には、表情を見ればどういふ心理状態かわかる、ってよく言われます(笑)。

——決勝は中国。団体ではロンドンオリンピック以来の対戦。感じた差はありますか。

石川 凄く強いな、という印象を受けました。でもロンドンオリンピックよりも、得点になっている部分、良いラリーができていて、と実感することができました。男子の合宿に参加しているおかげなのかもしれませんが、強いボールを日頃から受けることができていたので、以前よりもスピンのかかった、威力のあるドライブに対する恐怖心は、なくなっただけだと思います。

——銀メダルを獲得した感想は。

石川 表彰台上に上がった時もうれしかったのですが、準決勝に勝った瞬間、は凄く嬉しかったです。

実はあの時、凄く必死で、自分で勝ったかわらなかつたんです(笑)。ベンチの喜んでる姿をみて、「あ、勝った。勝ったんだ」という気持ちでした。

——今回、良いプレーがたくさんあったと思いますか。

石川 特に、この技術が良くなった、というのは自分ではないと思います。全体的に良くなっていると思います。最近、前陣でも中陣でもプレーできるように練習しているので、プレーの幅

は広がったかもしれません。

——男子と練習するようになって良くなった部分は。

石川 相手の強打に対してのブロックは良くなったと思います。あとは、どんなにこちらが強いボールを打っても決まらない。だから、連続して良いボールを、良いコースに打たないといけない。かに相手にミスさせると、この部分を考えるようになったと思います。

打球をしていなくても、自分より強い選手がたくさんいるので、見ているだけでも勉強になります。

——世界選手権が終わって、これからオリンピックに向けての戦いがはじまると感じますか。

石川 オリンピック本大会までは、あと2年しかなく、オリンピック出場を決めるにはあと1年しかありません。上のランキングの選手たちとの距離をどんどん縮めたいと思います。

——世界ランキング上位には中国選手がたくさんいます。打倒中国選手、を特別意識していますか。

石川 2月のカタールオープンで、武陽選手に勝つことができました。凄く自信になりました。

まずはもっと練習をして、自分の実力を上げていきたいと思っ

す。そうすれば差はどんどん縮まっていくと思います。

——これからの課題は。

石川 もっとプレーの幅を広げて、いろいろな引き出しを作れるようにしたいと思っ